

「あいちトリエンナーレ 2019」 これまでの経緯

月 日	内 容
7月31日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝刊に「平和の少女像」展示の報道。トリエンナーレ実行委員会事務局（以下、「事務局」）への抗議電話が始まる。 ・午後には事務局の電話回線がパンク状態に。 ・文化庁がオープニング・レセプションを急遽欠席。
8月1日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局へ抗議電話が殺到(200件)、他業務が行えない状況に。 ・職員個人が中傷される事案が相次ぐ。
8月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、ガソリンテロを予告する脅迫FAXを発見。東警察署へ通報。 ・名古屋市長が会場視察。「表現の不自由展・その後」の展示中止を求める。 ・県庁など他機関へも抗議電話が殺到。本庁にコールセンター設置。 ・津田芸術監督が、「展示の変更も含め、何らかの対処を行うことを考えている」とのステートメントを発出。
8月3日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・大村知事(実行委員会会長)と津田芸術監督は、安全性が確保できず、円滑な運営ができないことから「表現の不自由展・その後」の展示を3日までとすることで合意。 ・午後5時から大村知事が記者会見。引き続き津田芸術監督が会見。
8月4日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁に経緯を説明
8月5日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝、愛知芸術文化センターや県内の小中学校、高校、幼稚園にガソリンテロを予告するメールが届く。
8月6日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・8月2日の脅迫FAXに対する被害届を東警察署に提出。 ・作家2名の展示が、作家の意向により中止となる。 ・参加アーティスト72組が声明を発表。 ・「表現の不自由展・その後」実行委員会から公開質問状。
8月7日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知芸術文化センター内でガソリンだと叫びながら液体を撒いて暴れた男を警察が現行犯逮捕。 ・脅迫FAXの容疑者を逮捕。
8月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県が、第三者委員会「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」を8月16日(金)に立ち上げると発表。
8月10日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の不自由展・その後」の展示中止に抗議して、海外作家が自身の展示を閉鎖。
8月12日 (月・祝)	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁及び芸術文化センター周辺でビラが掲示。 ・アーティスト主催の意見交換会が開かれ、参加アーティストと津田芸術監督が意見交換。

「あいちトリエンナーレ 2019」 これまでの経緯

月 日	内 容
8月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・海外作家9名が展示作品の一時的な停止を決めた公開書簡が、国内外のメディアで報道される。 ・脅迫メールに対する被害届を東警察署に提出。
8月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」第1回会議開催。
8月22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・大村知事がトリエンナーレの全参加作家に対して書簡を发出。 ・「表現の自由に関する公開フォーラム(仮称)」を9月に、「表現の自由に関する国際フォーラム(仮称)」を10月に開催したい旨言及。
9月3日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人作家1名が出展作品の内容を再設定。
9月11日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の出展作家35組が、不自由展の再開を含め、これまで中止・変更された全展示の再開を目指すプロジェクト「ReFreedom_Aichi」の開始を発表。
9月13日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の不自由展」実行委員会が展示の再開を求める仮処分の申立てを名古屋地方裁判所に提出。
9月17日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」第2回会議開催。
9月21日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の自由に関する公開フォーラム」開催。
9月22日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・四間道・円頓寺会場周辺でビラが掲示。
9月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人作家1名が作品の展示を一時中止(平日のみ)。
9月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」第3回会議開催。 ・検証委員会が中間報告を発表。まとめにおいて、「条件が整い次第、すみやかに(「表現の不自由展・その後」を)再開すべき」と提案。 ・検証委員会の提案を受けて、知事が「再開を目指したい」と表明。
9月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁が、愛知県が申請していた「平成31年度文化資源活用事業費補助金(日本博を契機とする文化資源コンテンツ創生事業)」の不交付を決定・通知。
9月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人作家1名が作品の展示を一時停止。 ・展示を一時中止している海外作家から知事あてに、10月5日の不自由展再開を求める書簡。
9月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・あり方検証委員会中間報告に対する知事方針を踏まえ、トリエンナーレ実行委員会が「表現の不自由展」実行委員会に対し展示再開に向けた協議を申入れ。 ・「表現の不自由展」実行委員会と和解が成立。

「あいちトリエンナーレ 2019」 これまでの経緯

月 日	内 容
10月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の不自由展」実行委員会とあいちトリエンナーレのキュレーターチームが、不自由展再開に向けて鑑賞方式等の協議を実施。 ・知事が、トリエンナーレの全参加作家に対して、展示再開に向けた協議を呼びかけた旨の書簡(9月30日付)を発出。
10月5日(土) 6日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちトリエンナーレ 2019 国際フォーラム『「情の時代」における表現の自由と芸術』開催。
10月7日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・知事が臨時会見を開き、10月8日(火)からあいちトリエンナーレの参加作家全員が復帰して再開すると発表。
10月8日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の不自由展・その後」展示再開。 ・トリエンナーレ参加作家によるコールセンター開設。 ・河村市長が芸文センター2階のペデストリアンデッキで抗議行動。
10月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・トリエンナーレを脅迫する不審郵便物が芸文センターに届く。 ・県内6市に、市内の学校等への放火を予告する脅迫メールが届く。
10月12日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号の影響で全会場休館。PA等の公演も全て中止。
10月14日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・知事が「あいち宣言・プロトコル」の草案を受取。 ・「あいちトリエンナーレ 2019」閉幕。 来場者数は67万546人(速報値)で過去最高を記録。
10月24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁の補助金不交付決定に対して、県が補助金適化法に基づき不服申出書提出。